

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社タカコ京都新工場	階数	地上4F
建設地	京都府木津川市	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,050時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年4月1日
敷地面積	15,495 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社久米設計
建築面積	4,363 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月1日
延床面積	11,741 m <sup>2</sup>	確認者	李勝煥



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%  
 ②建築物の取組み: 100%  
 ③上記②以外の: 97%  
 ④上記+: 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 3.0**

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 3.1

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 2.8

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 2.8**

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 2.9

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.7

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>必要機能をよりコンパクトにまとめ最小のボリュームで計画しています。</p> <p>敷地内に機能的な動線計画を行い、可能な限り緑化に努めています。</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>建物として断熱性能を確保することはもちろん、居室に面する外壁には可能な限り窓を設け、十分な採光・通風が行える計画としています。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>十分な天井高さ、外壁に開口部を多く設けることで利用者の快適性に配慮しています。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>可能な限り敷地内を緑化しています。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>十分に建物外皮の熱負荷抑制を行っています。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水コマ、換気装置を設置し節水を図っています。</p> <p>工場棟はプレストレストコンクリートを採用し、躯体量の削減を図っています。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地内の明確な動線計画と駐車計画を行うことで接続部分への配慮を行っています。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される